



地域外から活力を呼ぶ道の駅

「川場田園プラザ」

道の駅 川場田園プラザ 駅長 小海 一則

川場村とは

川場村は、群馬県の北部に位置し^{ほたかやま}霊峰武尊山の南麓に広がる面積85.25km²、人口約3,500人の農山村です。村内には村名の由来(川が多く在る場所)となる4本の1級河川や多くの小川が流れ、肥沃な大地を形成しています。

むらづくりの始動

昭和30年代以降、人口は4,000人を割込み昭和46年には過疎指定(平成12年解除)を受けました。人口の流失が続くこのままでは村が減ってしまうと考えた当時の村長は、この現状の改善策として50年代初頭、農山村に観光を採り入れ「農業プラス観光」の施策の礎となる基本方針を定めました。

田園プラザ構想と役割

「農業プラス観光」施策により来村者の増加も見込め、観光拠点としての理想的な立地にも近づき、それらを川場村として利活用することで外部からの新たな資本の参入を遅らせることや防ぐことも考えられました。また、新たな入込にも着目し、世田谷区との交流による地場農産物の販売をさらに押し進め、世田谷区民以外の来村客にもアピールする場と販売の出来る場所の構築を検討し、平成2年「村のタウンサイト」として「田園プラザ構想」が動き出し、川場村リゾート整備事業計画の主要事業に位置づけられました。

来村客には物産購入と飲食の提供場所や休憩スペースおよび村内の案内場所の整備などが必要と判断され、村民からは、村外に流出してしまう消費の引き止めや農産物や加工品の直接販売施設を強く求められました。

将来を見据えての若者の村内定着の促進のための雇用の場の確保の重要性、スキー場や村内シャトルバスのターミナル整備も課題となっていました。

以上の多様な機能と要望を踏まえ、平成4年、川場田園プラザの整備が始まりました。

むすびに

道の駅「川場田園プラザ」を利用いただいたお客さまは、平成25年度は目標を上回る約120万人に上りました。

村民と来園客両方に信頼される道の駅を目指し向上を重ね、地域活性の一つの歯車を目指します。

また、このたび、国土交通大臣より全国1,040カ所の「道の駅」の中から、全国モデルに選定いただきました。この栄誉におごることなく、より一層地域の向上と活性化に貢献していきたいと思ひます。

